

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500710		
法人名	(株)ふれあい介護センター		
事業所名	グループホームふれあい愛知		
所在地	宜野湾市愛知3-17-20		
自己評価作成日	令和5年 2月 11日	評価結果市町村受理日	令和5年 5月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiqkensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon-rues&amp;jisvosyoCd=4770500710-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaiqkensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon-rues&amp;jisvosyoCd=4770500710-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和5年 2月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は4名の新しい入居者様に加わりました。自立度が高い入居者様が多いので、日常での家事活動や体操レク、行事等は活発に楽しんでいきます。支え合える地域との繋がり、その中での地域生活・集団生活、自分の時間やペース等も大切にしながら、ご本人様やご家族様に喜んでもらえるサービスが提供出来るように職員一丸になって頑張っています。出来る事探しの視点と、待つ姿勢の支援で、長く一緒に過ごせ笑顔や笑い声が飛び交う明るいグループホームを目指します！

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小高い丘にあり、デイサービスや有料老人ホームを有する複合施設の2階にある。法人は「健康経営」を目指し、職員のメンタルヘルス等の健康管理に取り組み、ストレスチェックや面談を行い、職員が心身ともに健康的に働けるよう環境を整備し、虐待防止に取り組んでいる。入居するにあたって利用者の不安を軽減するため、利用者家族が作成した「認知症改善プログラムへの宿泊体験」計画に沿って、1日1日をお試し体験と見立てて実行し、職員もその計画に協力することで事業所の生活へ移行できた事例がある。新規利用者の「息子の食事作りのために家に帰りたい」との願望に応え、職員は利用者と一緒に片道1時間もの利用者宅まで徒歩で行き、利用者の気持ちに寄り添った支援をしている。利用者自身の意思で、朝食にパンかご飯を選択できるよう支援している。服薬チェックの工夫として、携帯電話でアラームを鳴らしてダブルチェックを行っているため、誤薬事故がない。広い居間には、ソファや畳間、ベッドが設置されており、利用者が思い思いの場所で寛げるよう工夫している。誕生日会や日常生活の活動の録画を鑑賞する等、利用者が楽しめるよう支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自事業所が目標とするケアや業務が行えるよう、見える場所に置く事で意識しながら動ける環境を作っています。	理念は、地域との繋がりに重点をおき、2年前に改善している。理念を実現するための方針として、「能力を奪わない介護、待つ介護を目指し、本人の尊厳を守ります」と、方向性を示し、実践に努めている。職員は、コロナ禍にあっても、利用者の「家族に会いたい」や「外に出たい」等の思いを尊重し、家族と連携を取り支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入は継続中です。コロナ対策での地域活動の動きが止まっている状況が続いている所でもあります。繋がりが断たないような関係作りや情報共有に足を運ばせて頂く事もありました。	コロナ禍で、自治会の活動が滞りがちだが、利用者は職員と一緒に近隣のゴミ拾いを行っている。外出を要望する利用者と地域を歩いている時に、近隣住民から励ましの声かけがある。職員へは「認知症ではないか？」と思われる身内の相談を持ちかけられる場合がある。運営推進会議の地域代表として自治会長が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新規入居者様の帰宅要求への外出歩きを行っている期間があり、その際ご近所様からの相談や頑張ってるねの声かけが頂けました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は、コロナ感染対策を優先する事となりました。ミーティング内での開催をする事で、職員の殆どが参加出来た事が良い点になりました。来年度は顔が見れる環境での開催を望み、意見交流やサービスの向上に活かしたいです。	運営推進会議は、管理者と介護職員で活動状況報告などをまとめ、年6回、書面で開催している。家族、行政、地域包括支援センター職員、地域代表、知見者へは、郵送やFAX等で会議録を提供している。委員からの要望や助言は、口頭や電話でやり取りしている。面会の工夫方法で、知見者からLINE電話の活用方法についてのアドバイスを得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	宜野湾市グループホーム連絡会をリモート開催された時に参加しました。コロナ禍での面会状況や入居者様のお預かり金銭の件等の話し合い、情報交換が出来ました。	市の介護長寿課や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、待機者情報や事故報告について助言を受けている。市からはFAXやメールでグループホーム連絡会や研修会の情報提供がある。保護課職員と連携し、利用者の情報交換などを行っている。100歳を迎えた利用者から、お祝い金と賞状が届いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの特徴を捉えた身体拘束を事業所勉強会で学び合い、職員皆が理解を深め実践しながらケアに努めています。	身体拘束をしないケアの実践では、指針やマニュアルを整備し、運営推進会議の後に「身体拘束等廃止検討委員会」を2か月に1回、管理者や施設長、介護職員で開催している。職員は、グループホーム協会主催の「身体拘束に関する研修」をズームで受講している。職員は「ちょっと待って」等のスピーチロックの言い換えについて話し合いをし支援している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアで不安な点は皆で意見交換の場(主に申し送り時やカンファレンス)で相談し、不安なく過ごして頂ける様に又職員間で誤解が生じないようにしています。	高齢者虐待防止の指針やマニュアルを整備している。県グループホーム協会主催の「高齢者虐待防止に関する研修」を受講した職員により、事業所内で伝達研修を行っている。法人は「健康経営」を目指し、職員のメンタルヘルス等の健康管理に取り組み、ストレスチェックや面談を行い、職員が心身ともに健康的に働けるよう環境を整備し、虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人に「包括ふれあい」があり、権利擁護や制度の相談アドバイスが頂ける環境があります。学んだ事を職員間で共有し、日頃のケアに努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読み合わせ、説明と同意を頂いた後に入居というながれになっています。後日理解が不十分な所や不安な所はいつでもご連絡下さいとの声かけも行っていきます。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とご家族様の面会制限が法人統一した状況が続いています。その中でも出来る事、電話やSNSを活用した活動時・行事自の写真や動画をプレゼントする事で喜ばれる事が多いです。	利用者の意見や要望は、日頃の会話や入浴時に聞き取り、「家族に会いたい」、「炭酸飲料が飲みたい」等の要望を家族に繋げている。家族からは、病院受診時や電話、LINEで要望を聞いている。入居するにあたって利用者の不安を軽減するため、利用者家族が作成した「認知症改善プログラムへの宿泊体験」計画に沿って1日1日をお試し体験と見立てて実行し、職員もその計画に協力することで事業所の生活へ移行できた事例がある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年外部評価を終えた後は評価結果を職員全員に配布し、ステップの部分は特に勉強の分野である事を伝えています。そこで人事評価の目標にも繋げる事も出来ています。	職員の意見や要望については、職員会議やミーティング等で聞いている。管理者は、職員が外部評価の結果を活用することで、職員の考えを把握している。年2回実施の人事考課では、6か月と1年に設定した目標の達成について面談を行い、職員の意見や相談を受けている。職員の提案で、シフトの改善や温湿度計などの購入に繋げている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を活用する事で、職員各々が事業所目標・自己目標を立てています。一人一人の思いを聞ける面談の時間を作り、一緒に考えて動け、成長に出来ていると思います。	就業規則を整備し、有給休暇の取得や日勤者は年1回、夜勤職員は年2回の健康診断を実施している。11月に事業所内で発生した新型コロナウイルス感染症クラスター時の職員補充には、複合施設の施設長等の応援で乗り切っている。ハラスメント研修が実施されているが、事業主の義務となっている「職場におけるハラスメントの防止」に向けた指針または規程等が整備されていない。	「職場におけるハラスメントの防止」に向けた、指針または規程を策定し、就業規則への記載や相談窓口の設置が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ここでも人事考課を活用。出来る事探しの視点から、一人一人の業務分担や入居者様の居室担当・行事担当等を行う事で、責任感や達成感に繋がっていると思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県・宜野湾市グループホーム連絡会への参加等へ参加する事で、相談や情報収集といった情報交換が出来ました。その情報を職員へ伝達共有もしています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化で不安にならないよう、真摯に向き合った関係作りを心がけています。入所される前に職員全員でカンファレンス・予想されるパターンを話し合い、楽しく過ごせる環境を目指しています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの特徴を知って頂き、家族様の今までの家族様の在宅介護を労い、職員一丸となって支えていく事をお伝えし、実施しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特徴を知って頂いた上、ご本人様の現状に合わせた出来る事や、希望が難しい事等は初めにお伝えしています。法人全体パンフレットをお渡しし、他事業所の紹介出来る事も強みです。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や行事、体操やレク活動を通した入居者様同士の活動の中に職員が積極的に一緒に過ごす時間を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限の中でも状況を理解して頂き、のSNS活用で上手関わる事が出来ています。事業所からも日頃の様子を発信する事もしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話持参の方がいらっしゃったり、事業所電話やSNSを利用しいつでも連絡が取れ合える環境です。お手伝いが必要な方の要望にもお応えし、切れない関係作りが出来ています。	利用者の馴染みの人や場との関係については、利用者や家族等から生活歴や職種、人間関係を聞いて把握している。現在は訪問美容師を利用しているが、コロナ禍以前には、馴染みの美容室に通っていた利用者がある。同級生が面会に訪れる利用者がある。繋がりを継続できるよう、利用者の写真入り年賀状を作成し、家族や近親者へ郵送する等支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操には殆どの方が参加し、楽しそうに活動されています。気の合う方の居室に「コーヒーの時間だよ」と、お誘いに向かわれる光景も見られます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	前入居者様のご親戚が今回入所に至りました。その時のケア事例等も情報提供し選んで頂け、職員全体で繋がり大切さを再確認しました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅生活でのペースを尊重しています。入浴の時間帯・好みの食事提供等々といった、要望に応えられる事に関しては実施出来ています。	利用者の思いや意向については、調理時や入浴時など、日頃の生活場面の会話や表情から把握している。コミュニケーションがとれない利用者の中には、家族からの情報提供や職員間の情報交換から把握に努めている。新規の利用者の「家に帰りたい」の要望に応え、職員は、利用者と一緒に長時間歩くことで、利用者の気持ちに寄り添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話の中、ご家族様や前任ケアマネ様からの情報提供が主に教えて頂ける事が出来ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日々の申し送り、毎月のカンファレンス(モニタリング)で、状態変化の早い気づきが話合え、ケア実施を行っています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス(モニタリング)で、職員の積極的な情報交換の場面が見られます。ご本人様やご家族様の意見も伝達しながら、適したプランに反映出来ていると思います。	介護計画の作成については、家族の意見や要望は電話やLINEで聞き取り、利用者や居室担当職員、計画作成担当者、管理者でサービス内容を検討している。介護計画は、長期目標は1年、短期目標を4か月とし、モニタリングは毎月実施している。利用者の「マッサージは継続したい」のニーズに対し、リハビリやマッサージを続け、バランスや転倒防止に努める等、利用者の意向を踏まえた計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の大切さを職員が知る事で、ご家族様への情報提供やモニタリング、振り返りが必要な時の情報提供が来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時の病院受診対応、複合施設の作りを活かして午前午後の食後に3階有料老人ホームのコップ洗いも行っていきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍での外出制限がある為地域活動参加は難しい所でしたが、近場のゴミ拾いへ出かけてみたり、グループホームを知って頂けるブログ発信等を行っています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療利用者:3名様 外来対応:6名様 外来時や緊急時対応はご家族様対応となっておりますが、状態変化時は付き添い対応や、残薬調整等の情報提供書作成やLINE活用。安心して受診出来るように行っています。	利用者の多くはこれまでのかかりつけ医を継続受診し、家族が通院介助を行っている。状態変化時や服薬調整のときは管理者が同行している。情報提供は、口頭や文書、ラインで適宜対応している。3人が訪問診療を利用し、週1回訪問看護を実施する等、利用者の健康管理を支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時は24時間オンコールでの報告や助言が出来たり、毎週月曜は定期で訪問看護師が契約されています。併設のデイサービスに看護師がおり、相談や助言が頂ける環境も強みです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供書を提出や、退院カンファレンス参加してホームに戻った後の助言を頂いています。その内容を元に、申し送りやカンファレンスで職員への伝達周知をしています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しての内容説明は、契約時に同意書サインを頂いています。初回では決められないDNAR、変化時はカンファレンス開催、訪問診療・看護の情報提供も行っています(今年度は看取りが1件)	重度化に向けた方針や看取り指針を整備している。入居時に事業所の方針を説明し、利用者や家族の意向を確認している。DNAR(心肺蘇生を行わないこと)について説明し、同意書を提出してもらい、未決定の場合は再度確認をしている。訪問診療や24時間オンコール、看取りの研修を実施し、職員で情報を共有している。これまで看取りは4件の実績がある。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で外部研修が出来ない為に、事業所で出来る研修内容で勉強会、以前に学んだ内容を再度振替委ながらおこなっています。訪問看護からの対応方法も学べる機会があります。	緊急時対応マニュアルや事故対応マニュアルが整備され、緊急時の連絡体制を掲示し、AEDも設置されている。「救命処置、心肺蘇生とAED」のオンライン研修も受講している。転倒等による事故が今年度29件あるが、緊急時を除き、再発防止検討会議は月1回のミーティングで検討している。事故報告書は作成されているが、再発防止策の項目がない。	再発防止検討会議の早めの開催、及び再発防止策の項目を記載した事故報告書の整備が望まれる。
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年2回の(昼)(夜)想定避難訓練を実施する事となっています。複合施設全体で行っていた合同訓練から、事業所単位で実施しています。実施後に携わった職員で意見交換を行っています。宜野湾市により、全職員PCR検査を随時行い感染対策予防に努めています。	昼夜を想定した年2回の避難訓練を実施し、実施報告書も作成されている。水や非常食等を3日分備蓄し、自動発電機も保有している。11月に新型コロナウイルスのクラスターが発生し、法人や複合施設の職員等の応援や連携で対応している。PCR検査や感染症の研修を実施し、感染対策の予防に努めている。備蓄リストが未整備のため、作成に期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	密着な生活時間を一緒に過ごしているので、言葉かけに敬う気持ちを忘れないように気をつけています。一人一人の性格やペースに合わせ、待つ姿勢・尊重した生活支援を心がけています。	一人ひとりの人格を尊重し、利用者に寄り添った支援を心がけている。新規利用者は帰宅願望が強く、息子の食事作りに帰りたいと言い、職員が利用者と一緒に片道1時間の利用者宅まで徒歩で行き、利用者の気持ちを尊重した対応をしている。利用者への言葉かけには注意を払い、権利擁護や接遇の研修を実施し、対応等について学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動や施設周辺への外気浴のタイミング、食事時間や内容・飲み物が選べたり、ご自身の金銭で移動販売のヤクルトやパンを来入される方もいらっしゃいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によっての心身状況もあり、活動のお誘いはしながら本人様のペースで参加や見学。居室でのフリータイムの時間も大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の好きな化粧水使用、好きな服選びやお化粧・マニキュアをされたり、3カ月毎に訪問美容室が来所され、毛染めまで出来ます。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、出来る方は調理・洗い物まで行えています。2月は恵方巻作りをし、夕食で美味しく頂きました。行事の中でのおやつ作りも人気です。	3食事業所で調理をしている。朝食は夜勤明け、昼夕食は職員が交替で作っている。自立度の高い利用者3人が職員と協力して、食事作りや片付けを行っている。朝はパンかご飯を選択でき、飲み物も選べる。利用者と職員は同じ食事を摂っている。ホットプレートで、ソーメンチャンプルーやたこ焼き等のおやつ作りを楽しんでいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態からバランス、量や回数等々、一人一人の内容に応じた対応を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが難しい方はお手伝いを行い、口腔内の清潔に努めています。 訪問歯科を利用されている方もおられ、口腔ケアの仕方を学んだり、歯科受診が難しい方へ繋げる事もしています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失敗があっても、自尊心に配慮した声かけやフォロー、案内を行っています。失敗されたら入浴へ移行されたり、日中は布パンツで過ごされる方も多いです。	日中は全員トイレでの排泄支援を行っている。利用者5人は昼夜の排泄が自立している。夜間はパット交換をしたり、ポータブルトイレ利用の利用者1人も支援している。失敗した場合は、言葉かけに配慮しながら、トイレや浴室に案内している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消効果に良い食べ物提供や水分補給を促し、訪問看護に学んだマッサージも行えます。毎朝の体操の取り組みも実施出来ています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好きな時間や服選び、冷暖房での温度調整も行い気持ちよく入浴を行っています。 シャワーキャリ・ストレッチャー浴も可能です。	入浴は週2~3回で、一人ひとりに添った支援を行っている。入浴が自立している利用者もいる。朝風呂で毎日入浴する利用者が1人、1日ごしの入浴者も2人いる。重度の場合は、シャワーキャリー浴で対応している。同性介助を基本として、羞恥心に配慮している。脱衣場は冷暖房が完備し、入浴後はプロペト等で保湿をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の好きな時間に休息を取ってもらえています。共有スペースには畳間やソファ、ベッドもあり使用されています。居室でゆっくりさしていたりもあり、自由な空間があります。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局(薬剤師)が居る事で、配達からセット、相談まで行って頂いています。飲まれる1日分のセットと飲んで頂くまでは緊張感を持ち、事故防止に努めています。	法人の服薬支援マニュアルが整備されている。提携している薬局が薬剤管理をし、配達や2週間分の配薬を行っている。当日分を夜勤がセットし、遅番が確認している。服薬は携帯電話に確認のアラームがなり、服薬確認のダブルチェックになっている。誤薬事故はない。薬の内容等の勉強会を実施し、情報の共有に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人や入居者同士で出来る趣味活動や家事活動等を実施しています。認知症症状で出来る事を選びを見極め、難しい所を職員と一緒にやる事で楽しめています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の為、外出制限が続いている現状です。その中でも、外出気分を味わえる動画を流したり、季節の壁面づくりや花を飾ったりしています。法人ルールを守りながら、ゴミ捨てついでの周辺散歩は出来ています。	利用者は週1回程度施設周辺を散歩したり、病院受診で外出をしている。コロナ禍で外出制限が行われ、11月には事業所でクラスターが発生し、対応に追われている。利用者が楽しめるよう夏祭りや敬老会、利用者の100歳のお祝いを盛大に行っている。コロナ禍は家族とガラス越しの面会をし、現在は予約で交流室での面会を実施している。気分転換やストレス発散の機会として、ドライブ等の活用を期待したい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方は領収証発行と出納帳を準備し管理させて頂いています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 5月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は自由に電話をかけ、とても楽しそうな笑い声が聞こえてきます。字を書く事が難しいので、年賀状を送った際にご本人様写真張り付けて送りました。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は換気と適度な室温設定をしていて過ごしやすいです。窓からの光が射して明るいスペースとなっています。毎月、季節の壁面を入居者様と制作して飾り付けまで行っています。	広い居間では、利用者が行事やレク活動、ホットプレートでのおやつ作りを楽しんでいる。台所は対面キッチンで、利用者との会話や見守りがしやすいようになっている。ソファや畳間、ベッドが設置されており、利用者が思い思いの場所で寛げるよう工夫している。誕生日会や日常生活の活動の動画を鑑賞する等、利用者が楽しめるよう支援をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで集まってたいそうやお喋りをしながらお食事・おやつを楽しんだり、畳間やフロアーベッドで横になったりと、思い思いに過ごす環境作りがされています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で慣れ親しんだ物で居室をアレンジし、家族写真が飾られていて居心地良い環境の中でゆっくり時間を過ごされています。TVやラジオを設置し、好きな時に自分の余暇時間も大切にされています。	居室には電動ベッドやタンス、エアコン、カーテンが備え付けられ、ナースコールも設置している。テレビは3人の利用者が持ち込み、ラジオや携帯、馴染みのソファを置いている利用者もいる。家族写真や手作りの作品を飾り、ゆったりと過ごせるようその人らしい居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ看板や居室に名札を付ける事で、目的場所から戻る道筋に不安がないようにしています。各部屋に時計やカレンダーを飾り、自分で出て来てくれるのも目的としています。		